

2021年度第1四半期 決算補足資料

2021年8月6日



2021年度 第1四半期決算のポイント

(単位：百万円)

| | 2020年度 | | | | | 2021年度 第1四半期 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 通期 | |
| 売上高 | 15,524 | 21,312 | 27,670 | 28,467 | 92,973 | 27,117* |
| 営業利益 | △3,020 | △782 | 1,092 | 282 | △2,436 | △ 653 |
| 経常利益 | △2,589 | △561 | 1,004 | 169 | △1,977 | △ 398 |
| 当期純利益 | △3,190 | △788 | 919 | 337 | △2,722 | △ 495 |

*会計基準改定適用前今期売上高28,485百万円

《全体感》

- 売上：アルミ地金市況の上昇および円安により売上高は前年第4四半期比△4.7%減。一方の販売量は半導体不足等による自動車メーカーの生産減を受け△9.9%の減少
- 営業・経常利益：生産性の改善を継続するも半導体不足等による販売量減と地金市況上昇による調達コスト増が収益に影響
- 当期純利益：営業利益、経常利益の減益により純損失を計上

ダイカスト事業

(単位：百万円)

| | | 2020年度 | | | | | 2021年度 第1四半期 |
|-----|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------|
| | | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 通期 | |
| 日本 | 売上高 | 7,232 | 10,972 | 13,760 | 13,620 | 45,584 | 12,315 |
| | セグメント 損益 | △2,069 | △650 | 381 | △153 | △2,491 | △ 326 |
| 北米 | 売上高 | 4,742 | 3,868 | 6,262 | 6,756 | 21,628 | 7,241 |
| | セグメント 損益 | △156 | △167 | 449 | 100 | 226 | △ 115 |
| アジア | 売上高 | 2,257 | 5,346 | 5,738 | 6,590 | 19,931 | 5,478 |
| | セグメント 損益 | △995 | 36 | 132 | 219 | △608 | △ 353 |

※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算となります。

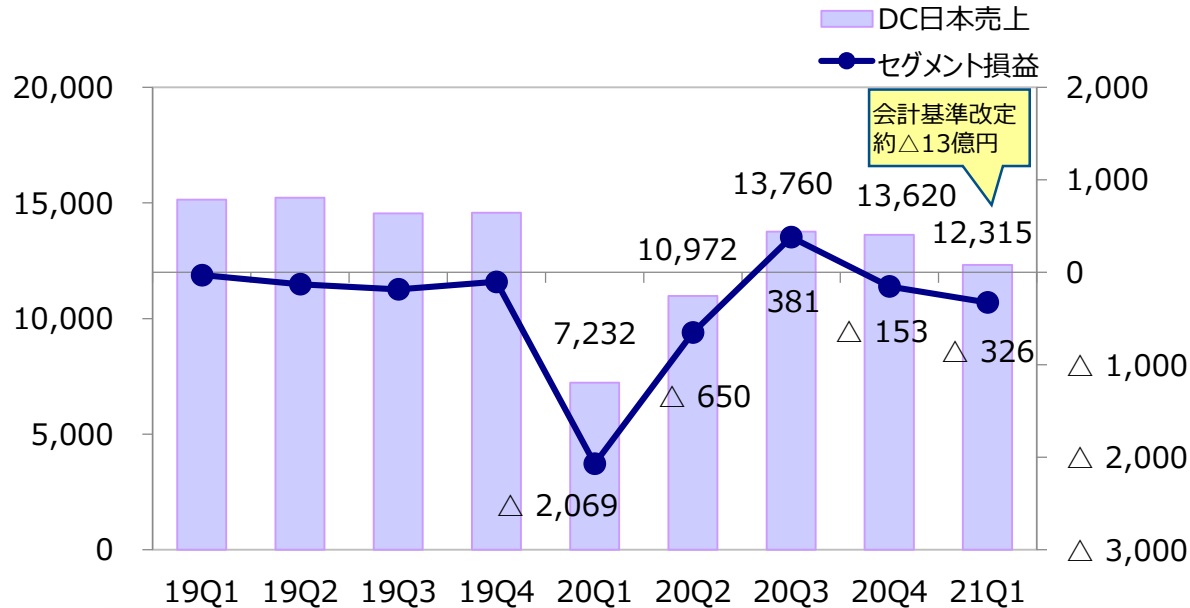
✓ ダイカストセグメントの海外売上比率

2020年度1Q：49.2% ⇒ 2021年度1Q：50.8%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



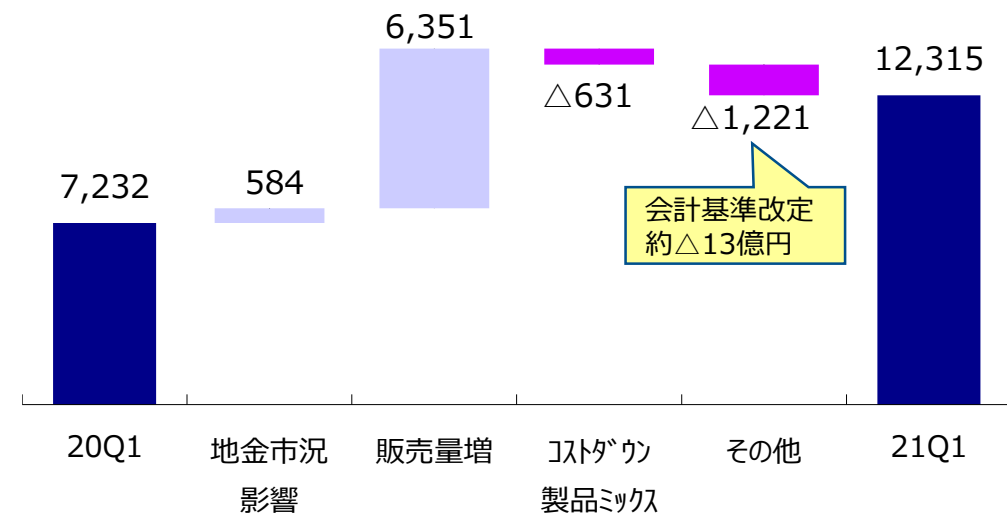
売上：50.8億円増（前期比70.3%増）

- 会計基準改定による影響(△13億)を除けば半導体影響は残るものの売上高、販売量ともに前年第4四半期並みで推移

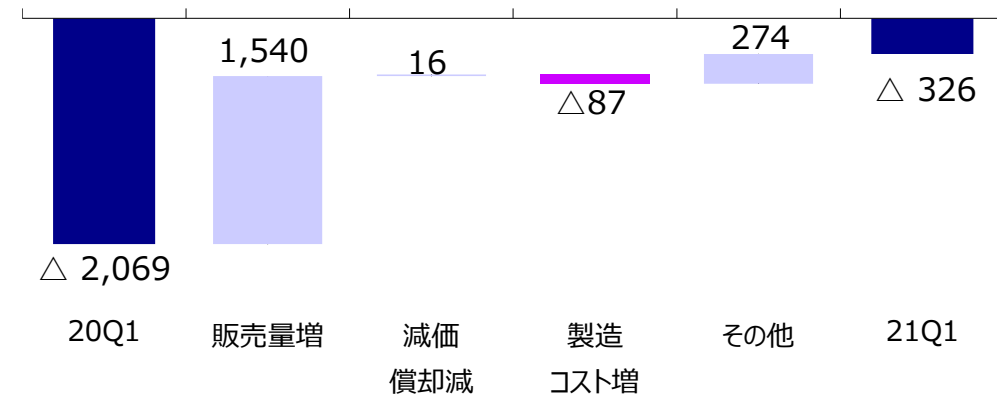
セグメント損益：17.4億円増（前期比増）

- 販売量増と生産性改善施策の推進により前期比増も、地金調達価格の高騰による短期的な収益圧迫要因等により赤字を計上

売上高増減要因（単位：百万円）

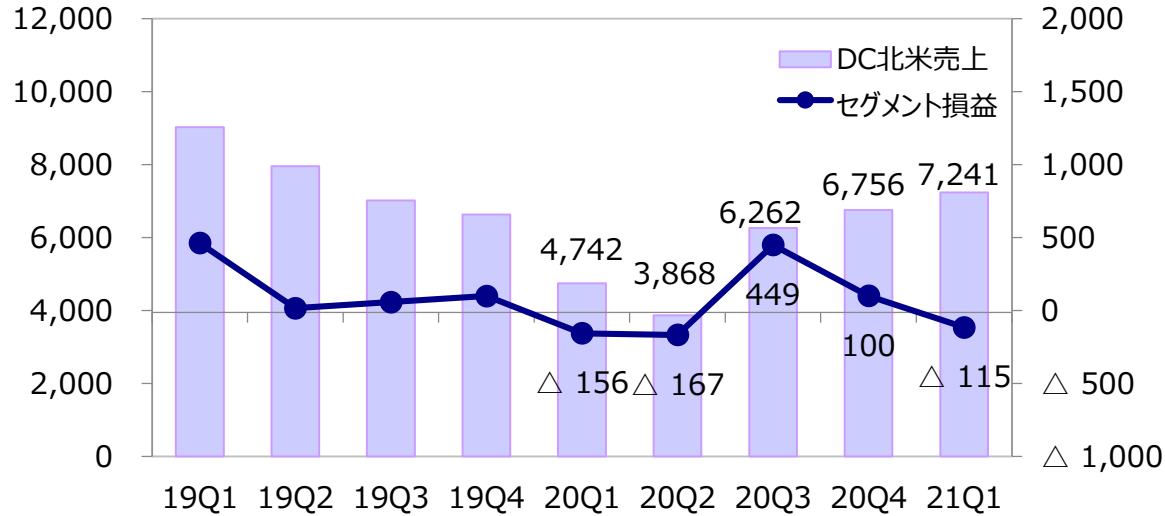


セグメント損益増減要因（単位：百万円）

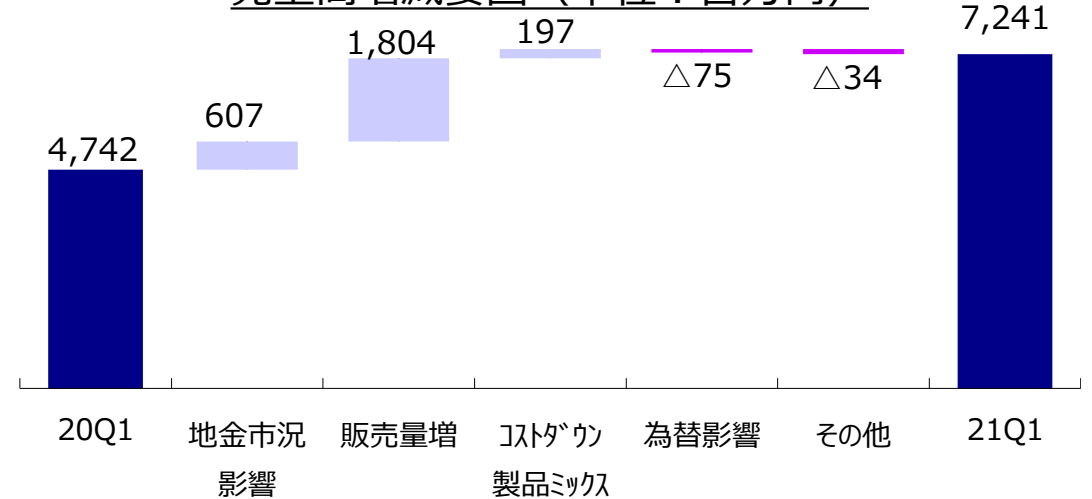


ダイカスト北米

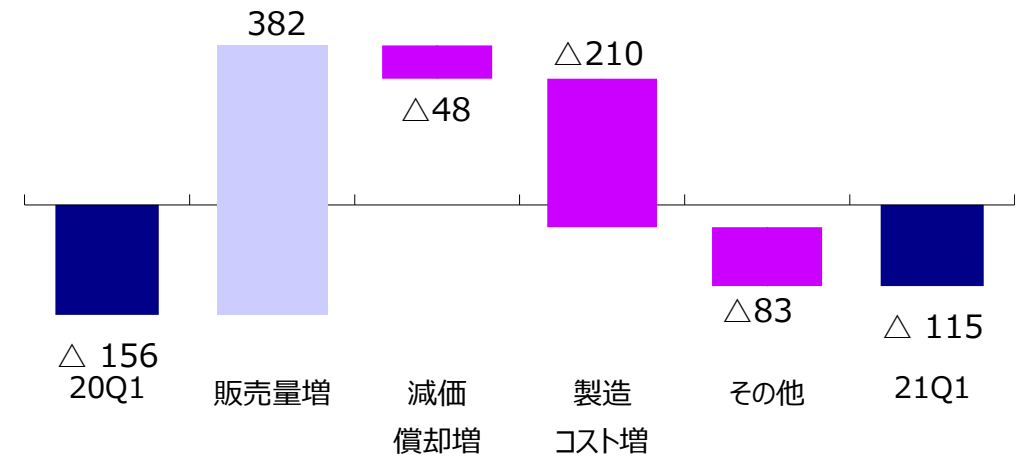
ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



売上：25億円増（前期比52.7%増）

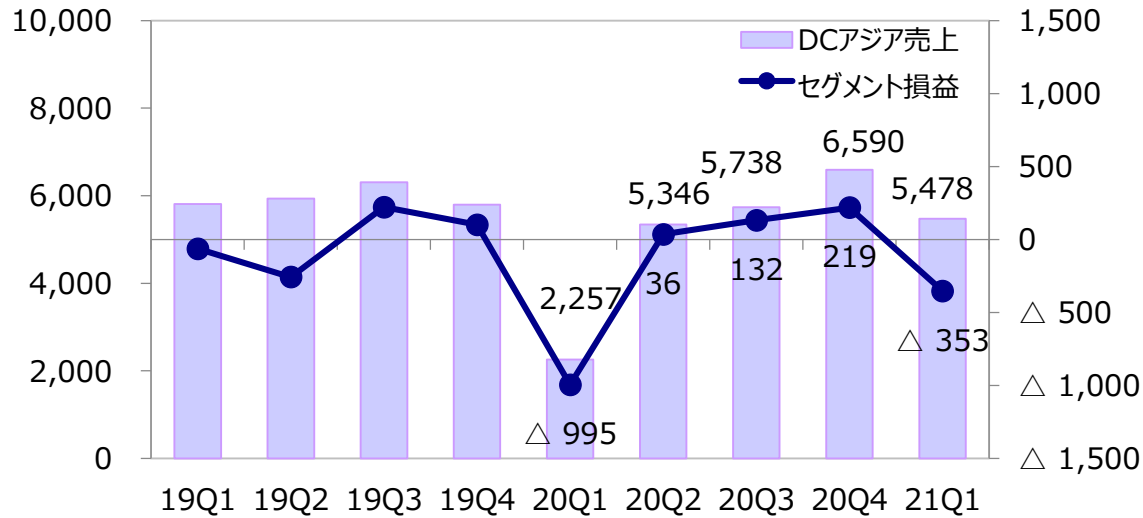
- ▶ アルミ地金価格の高騰等により前年第4四半期比で増収となるものの、販売量は半導体不足による生産調整の影響で減少（△4.6%）

セグメント損益：41百万円増（前期比増）

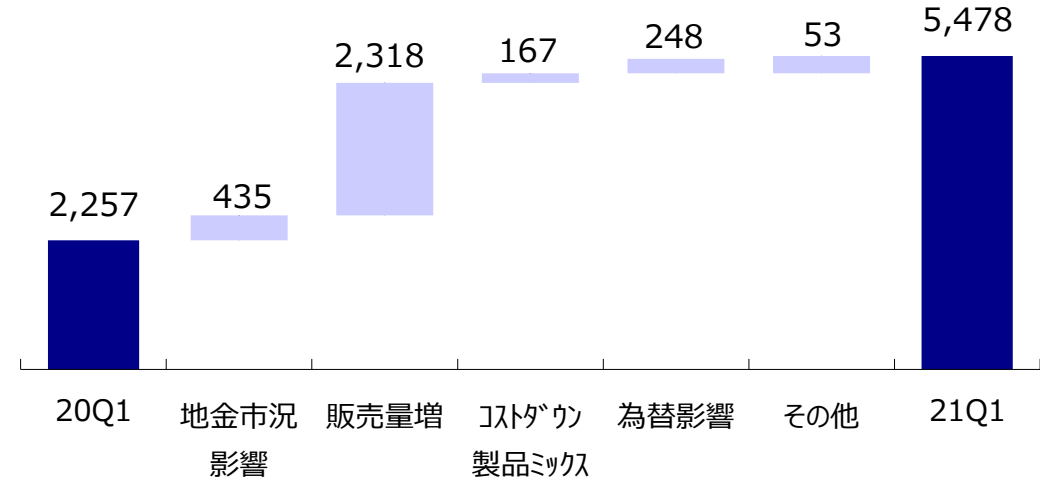
- ▶ 前年同期比、販売量回復による増収効果はあるが、半導体不足による影響とアルミ地金調達コスト増により収益を圧迫

ダイカストアジア

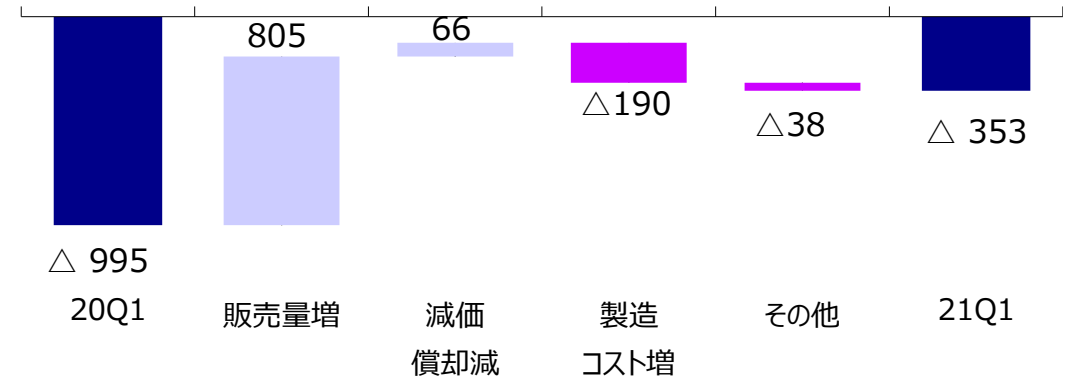
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



売上：32.2億円増（前期比142.7%増）

- 前年同期比では増収も中国1Qの1～3月は春節等により前年第4四半期比では減収
- インドは前年1Qロックダウン時比較では生産増だがコロナ影響による顧客の生産調整が継続

セグメント損益：6.4億円増（前期比増）

- 販売量が大幅に回復するも地金調達コスト増により収益を圧迫

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

| | | 2020年度 | | | | | 2021年度 第1四半期 |
|--------------|-------------|--------|-----|-------|-------|-------|-----------------|
| | | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 通期 | |
| アルミニウム 事業 | 売上高 | 646 | 748 | 1,018 | 1,071 | 3,483 | 1,328 |
| | セグメント 損益 | △41 | 0 | 36 | 38 | 33 | 67 |
| 完成品 事業 | 売上高 | 644 | 379 | 891 | 431 | 2,345 | 754 |
| | セグメント 損益 | 109 | 40 | 126 | 45 | 320 | 65 |

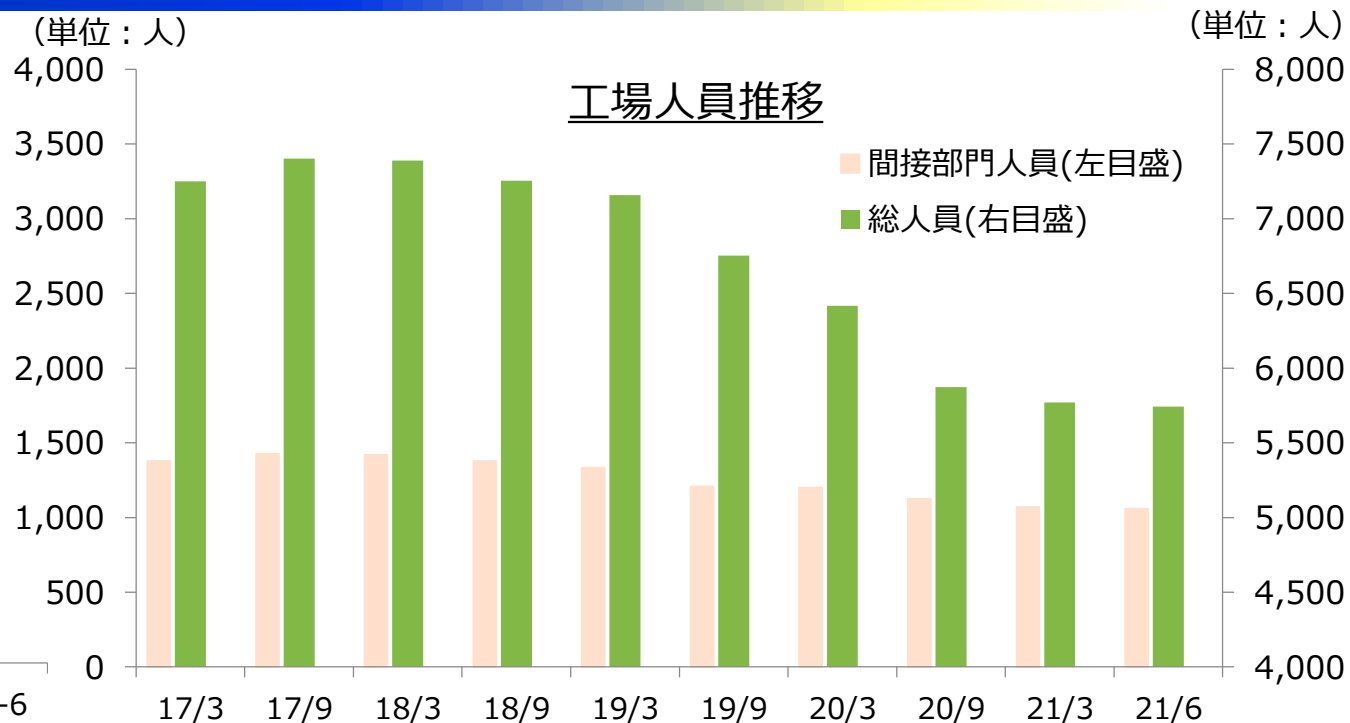
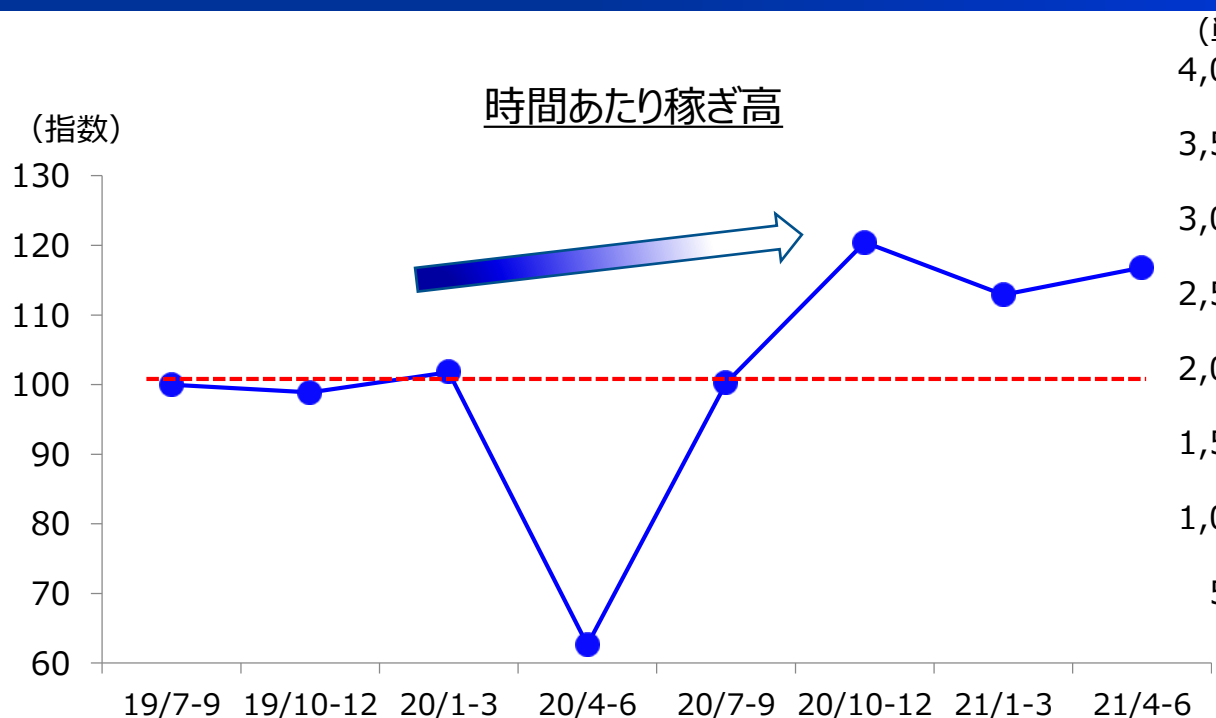
アルミニウム事業

- 売上：半導体不足による減産の影響が残るものの販売量が前年同期比57.9%増となり増収
- セグメント損益：売上高の増加等により増益

完成品事業

- 売上：主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し増収
- セグメント損益：価格競争の激化等により減益

リーンな生産体制の推進状況



リーン生産体制の推進で、時間あたり稼ぎ高は前年比改善
21年 1～6月一部工場の販売量減が影響

人員数を計画的に減少

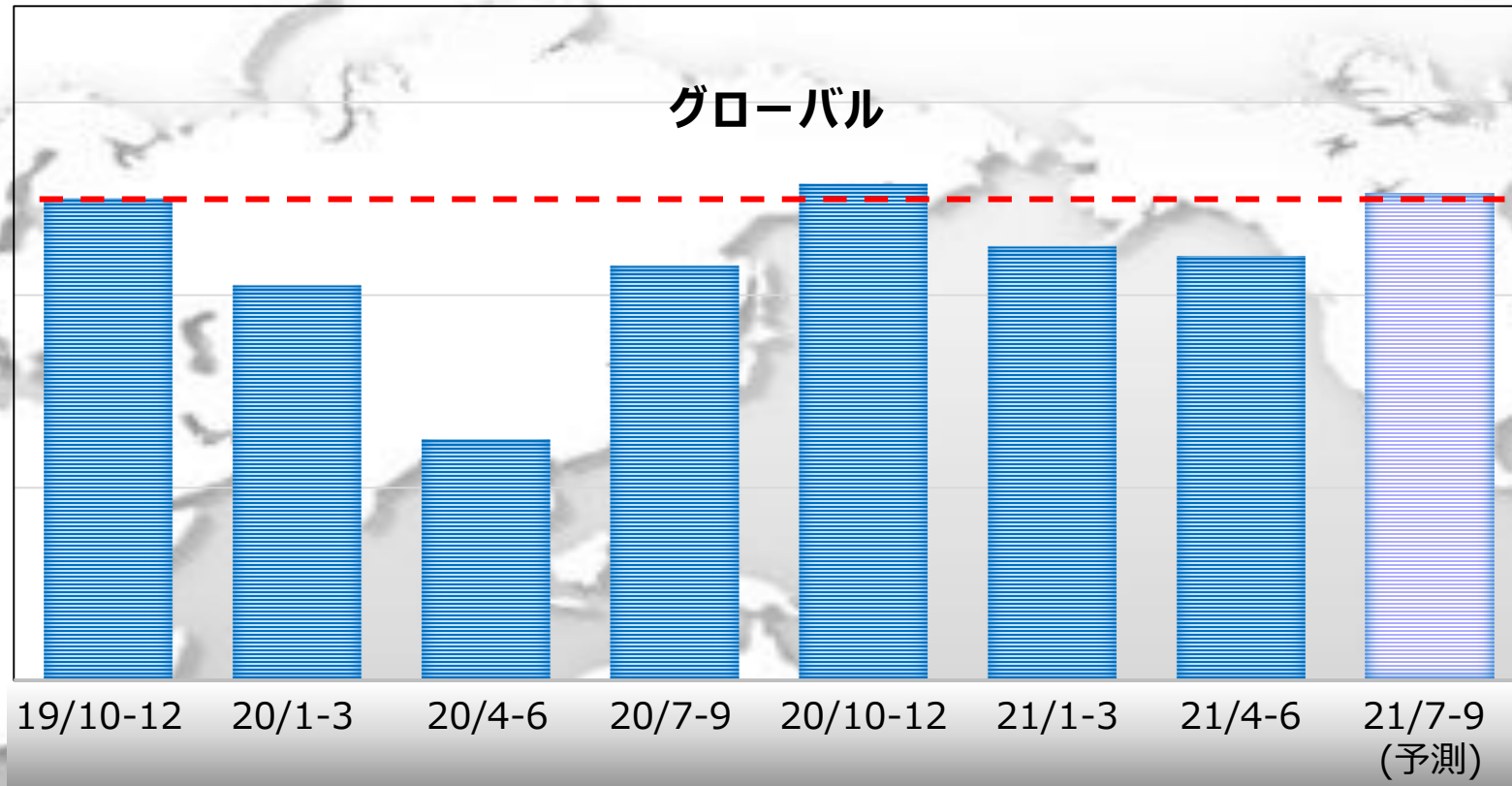
- ・工場間の間接業務の機能統合、人員配置転換等を実施
- ・検査工程の自動化や業務見直し等により効率化を推進

※時間あたり稼ぎ高 = 売上高から原材料費等の直接費を除く金額 ÷ 工場人員の総労働時間

グローバル 売上重量

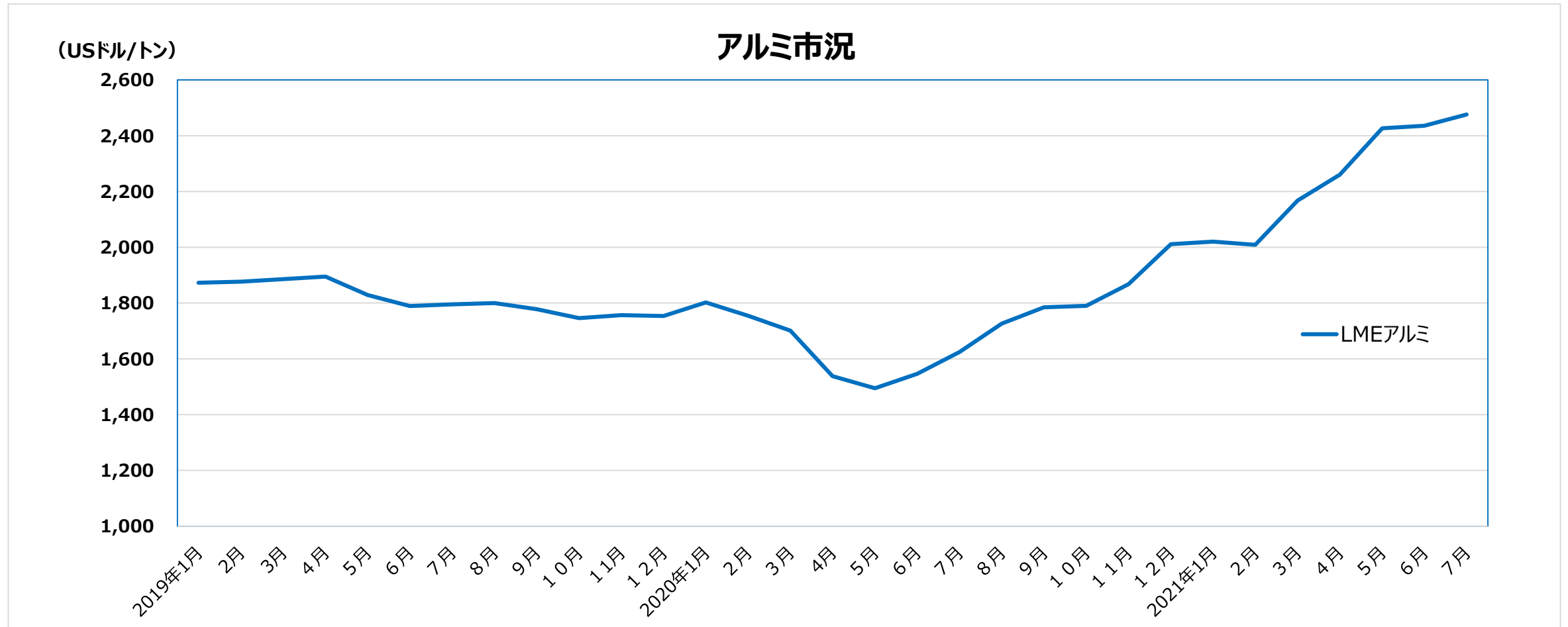
■ グローバルでは半導体影響等を受け21年4月～6月は減少も7月～9月では回復の予測

※新型コロナウイルス禍以前の19年10月～12月の3Q平均値を100とした場合の売上重量



アルミニウム地金価格

■ 地金価格の高騰により、原材料費の销售价格への反映タイムラグにより収益の短期的な圧迫要因に





Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。